

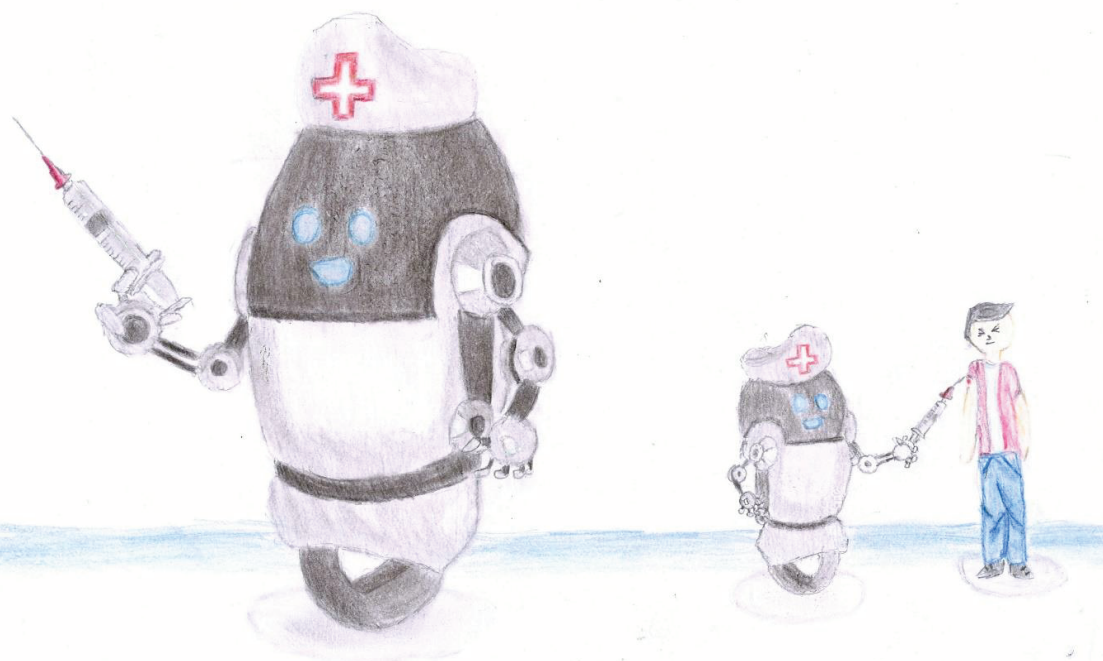
# あの手 この手

6月号  
2020

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。  
第155号 2020年6月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行



紫陽花



表紙絵は

「やまと国際フレンドクラブ」主催の  
やまと国際アートフェスタ 入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは “2030年の世界とわたし”

ふれあい窯芸クラブ賞 受賞  
題名 「病院の将来」

仲嶺ナツキさん  
草柳小6年(ペルー)

### 仲嶺ナツキさん からのメッセージ

<2030年の日本の未来>について…  
私はロボットを描こうと思いました。

ロボットたちは何が出来るだろうか?

そうだ! 病院での手伝いができるぞ!

ロボットたちは 私たちの生活の一部になって  
周りには何も無い絵になりました。専門家が  
別の部屋からコントロールできるからです。

新しい進歩で“未来”が近づいてきます。

### 大和市協働事業(行政提案型)を提案しました。 ~市民活動センターの管理運営(部室を活かした市民活動の推進)~

ここベテルギウスに移っての継続事業として、企画申請書を提出しました。これまでの経験を活かし、又これからの改善も含めてまとめました。登録団体の活動内容も“公益的市民活動”：“趣味・生涯学習的活動”7:3が移転後は反転し、また追加の“市民活動ブース”「部室」管理も、会計処理が別枠の事業項目として加わってきています。

他市の「協働事業」を見ますと 環境・緑化事業 観光・



ガイド事業 高齢者ネット・街づくり 防犯・見守り ネットなどが多く、センター管理運営は契約・委託事業として“指定管理制度”に移行しています。

市民活動推進(対面的ネットワーク)⇔貸館事業(事務的施設提供)の間において、それでも「登録団体が公益的活動に向かって更に活動幅をひろげ、活動団体の持っている専門域を社会資源として活用する市民活動へと展開していきたい」を事業課題として行っていききたいと思います。

この先3年間、このまま年を重ねる協働事業では問題です。新旧入れ替えた 継続的活動の場所・大和市民活動センターを目指します。「拠点やまと」会長 望月 則男

## 新型コロナウイルス禍 登録団体の活動の今を調査しました

引地川水とみどりの会 (略称:水とみどり)  
事務局長 五味 尚生 (Hisao Gomi)



新型コロナウイルスの感染拡大で、私たちの生活を中心に、様々な分野において活動のままならぬ日々が続いており、不便かつ不安の日々をお過ごしかと思えます。

引地川清掃も、3月から感染症予防のため活動を見合わせているところがございます。活動は基本的に屋外での活動となり、活動中はいわゆる「3蜜」にはなりにくい状況ですが、開始前、終了後の着替え、そして何よりも問題になったのは、

落ちている「ゴミ」の問題です。特に使用済みの使い捨てマスクやティッシュペーパー、煙草の吸殻など直接口に触れるものに関してはウィルスの感染リスクがあり、またこれらを分別・回収する際の感染リスクを防止するためには、何かしらの対応を行わなくてはなりません。県内の感染者数はピーク時に比べ、緩やかに減少しておりますが、第2波・第3波のピークを警戒し、改めて感染防止の対策を考えながら、状況を見て活動を再開したいと考えております。

再開の時期が見通せましたら、改めてホームページ等でお知らせいたします。

### NPO法人 フィット・フォー・マザー・ジャパン

センターがまだ利用中止になる前に代表の小林香織さんが、ZOOMの説明会に行かれたことをお聞きしたのでZOOMでのインタビューをお願いしました。



#### —ZOOMの導入はされましたか?

—ホストになるのが目標だったので、次にオンラインの研修に参加しました。手探りでやっていたら進まなかったと思います。まずは練習でメンバーとZOOM飲み会や画面共有をやってみました。

5/4にトライアルで無料の勉強会をしました。過去に受講した助産師を対象に5名限定で募集したところ15名の申込みがあり、午前、午後の勉強会ができました。練習させてもらったの1時間でした。

#### —オンラインで、勉強会をする目的は何ですか?

—今、自粛で妊婦さんの保健指導がカットされています。ママ達も自粛で活動量が減ってくればお産や産後に影響が出てくると心配です。妊婦が身体活動量を減らさないためにどんな情報を提供すると良いのか、助産師が保健指導で活かす勉強会をオンラインでしようとして動いています。5月後半に有料の勉強会をしますが、北海道や沖縄から躊躇なく参加するのは凄いです。

#### —今後の展望をお聞かせください。

—オンライン講座はスタートアップの段階なので、少人数で行う「一緒に解決していく型勉強会」や医療実践者に向けて学会発表の技術指導、サポートも出来るかなと、コンテンツをいろいろ考えています。受講料の設定、振込みの課題もありますが、afterコロナはオンラインがあたりまえになるかもしれませんね。

#### —今日はお時間を頂きまして、ありがとうございました。

### オンライン (ZOOM) で講演会

ファミリーサービスセンターやまと (FSC やまと) では5/13(水)にコロナウイルス感染予防を考慮したZoomを使った講演会を企画しました。

テーマ: 栄養について—食事の基本と免疫力アップ—  
講師: 山内 麻美 氏 薬剤師  
オーソモレキュラー栄養療法カウンセラー

それには大和市民活動センターからも参加しました。参加者は日本全国、海外(インドネシア)から約30名でした。

講師は画面共有でパワポを表示しての講演。話し中は聞く方の生活音が入らないように各自で音をミュートにし、質疑応答時に外すというようにしたので、講師の話に集中することができ、質疑応答の共有も出来ました。各自のパソコン画面に表示された図などは、一般的な講演会の映写された画面より見やすいと思いました。ポインターも使われていたようで、分かりやすく聞くことが出来ました。

初めての体験でしたが、自宅に居ながらにして参加できる一方通行だけではなく質問もできるなど良いことづくめ。筆者は大和市民活動センターで自分のパソコンで参加しましたが、建物内のインターネットの状況が悪く、音声や画像が途切れることもありました。一番大事なのはインターネットの環境ということですね。



櫻井

●新型コロナウイルス感染症の影響に伴うNPO法人の社員総会開催や事業報告書等提出の取扱いについては神奈川県ホームページでご確認ください。tpps://www.pref.kanagawa.jp/docs/md5/cnt/f536160/p0421toriatsukai.html



# TSUBASA インタビュー 「ママスク大和」

## イベント「キッズ・ホームルーム」から始まる オンライン子育て支援の展開

「みんなが見えるように、カメラに近づけてみて！」  
大和市周辺のお母さんたちの居場所をつくる「ママスク大和」代表の松本和美さんは、画面の先の子どもに語りかけます。外出自粛が続く今、「ママスク大和」は Zoom を使ったオンラインのイベントを開催しています。大和市民活動センターは松本さんにインタビューの機会をいただき、コロナ禍での活動の様子やモチベーションについて伺いました。

### 1- オンラインのイベントを作ったきっかけを教えてください。

「お母さんもお子さんともストレスがたまっているのではないかな」との思いがあって、「リセットできる時間に利用してもらえないかな」と考えてオンラインのイベントを進めました。

学校も幼稚園もコロナで休みになっていて、子どもたちを遊ばせていたシリウス・ポラリスとか大きい公園も使えなくなっちゃった。

家の周りでしか過ごせない中で、お母さんたちは3食ご飯を作らなければいけないし、子どもたちは友達に会いたくても会えないじゃないですか。

お母さんもお子さんも最初は前向き



「ママスク大和」のオンラインのイベント「キッズ・ホームルーム」では小学1年生の男の子が自作の絵本を紹介し、他の子どもたちと交流しました。

### 4- 今の活動の原動力は何ですか。

産後、私はものすごく孤独を感じて、しんどかった時期があったんですね。その時は、周りのお母さんたちに助けてもらいました。「こうやって人はつながっていくんだな、つながった



かつては、保育園の分室や勤労福祉会館で行っていた読み聞かせ。オンラインでは、そばにいる空気感を子どもたちにどのように伝えるかが課題だそう。

きであっても、自粛が長引くほど、親子の密な時間が長すぎちゃって、家にいることに飽きてしまう。家でのお互い反応も薄くなって、ストレスも溜まってきていると思っていました。

### 2- どんなイベントがありますか。

4月になって「GWまでは毎週何個かオンラインのイベントやろう」とまずはお母さんたちのお話し会から始めたんですよ。とにかく女性は話すのが好きなので、リアルではないけど顔見て話せるというのがちょっと安心するでしょ。

他にも「未就学児、小学校1-3、4-6年生」みたいに年齢で括って、少人数で子ども同士が話したり、それをみんなで聞いて、すごいなって拍手する「キッズ・ホームルーム」をやってみました。イベントでは私が大体ファシリテーターとして進行しています。

一回のイベントの人数は、大人でも12人が限界ですね。子ども向けはマックス6人にしてます。人数が多くなると、みんなに喋ってもらう時間が足りないで、「交流したい」というイベントでは少人数で満足度を上げる方がいいかなと思っています。

「いい世界になりそうだな」と思って。だから「お母さんたちが気軽に入れる場があったら、どんなによかったらう」というのを作っただけなんです。

「ママスク大和」自体は団体「ママスク」の中ではエリアの1つですけど、1つの市民活動団体として、助成金をもらったのは大和だけなんです。私は、代表としてママスク大和を独立させている気持ちなんです。その覚悟じゃないとやっていけないと思っています。

オンラインで十分コミュニケーションが取れることがわかったし、今求められているのもわかったので、多分これからも続けていくし、それができる環境に自分があると思います。そして、とにかく私はお母さんと顔見て話したい(笑)。



松本和美さん  
「ママスク大和」代表、カウンセラー。  
小学5年生の娘と高校1年生の息子をもつ、リアルなお母さん。

### 3- オンラインのイベントの難しい点は何ですか。

オンラインのイベントは準備がなかなか大変です。リトミック(リズムを体で楽しむ音楽教育)はZoomだと音がずれることがあるので、事前に音のチェックをしますね。読み聞かせでは、絵本をしっかりみてもらうために、事前にページを写真にとって使っています。

子どもたちは家にいて、いくらでも遊ぶものがあるし、そばにいる空気感が伝わらないと飽きちゃうんですよ。集中している間はお母さんたちは楽ですが、リアルで簡単にできていたことがそうはいかないので、いかに楽しんでもらうかに、ものすごく気を遣います。

お母さんたちにはオンラインのハードルが高かったんで、いろいろな切り口からサポートしました。

アプリの使い方、不安に感じるセキュリティを細かく説明したり、「学校とか習い事のオンライン化に合わせましょう」と持っていったりしました。今はメディアも取り上げてきて、みなさんほとんど抵抗ないみたい。



「キッズ・ホームルーム」の子どもたち

それに社会に貢献できる感じもできてきているんですね。例えば、学校休校が延長になって、市町村とか国が行動できないところに、「キッズ・ホームルーム」みたいな事例を教育関係のところに届けられるのではないかと、思います。

(サポーター 尾畑翼)



## 2020年度 社会福祉事業 NPO 基盤強化資金助成「住民参加型福祉活動資金助成」

【対象となる団体】  
下記の<1>~<3>のすべてを満たしている団体が対象です。  
<1>募集地域  
日本全国に所在する団体  
<2>助成対象者  
5人以上で活動する営利を目的としない団体(法人格の有無は問いません。)ただし、社会福祉法人は除きます。  
<3>助成対象の活動  
地域における高齢者・障害者・子ども等に関する複合的な生活課題に、地域住民が主体となって、包括的な支援を行なう活動

締切：6月19日(金)17時まで  
主催：公益財団法人 SOMPO 福祉財団  
HP: <https://www.sompo-wf.org/jyosei/juminsankagata.html>



## 2020年度子ども育成支援事業

読売光と愛の事業団は、子どもの貧困が社会問題と言われる中、日本で暮らす子どもたちがその環境などに左右されずに、健全に育つように支援活動をされている団体に資金助成します。

【助成対象】  
将来の担い手である子どもの健全な育成に向けて、支援活動を過去3年以上にわたって続けている団体で、その内容が社会のニーズに応じていて、計画に実現性があるもの。  
例) ・貧困家庭の子どもや親に対する支援  
・子ども食堂など子どもの居場所づくり  
・不登校や引きこもりの保護者に対する支援  
・啓発やボランティア養成  
・貧困家庭の子どもの学習支援  
・絵本などの読み聞かせ活動  
・児童養護施設退所後の若者支援

締切：2020年6月30日(火) 必着  
主催：社会福祉法人読売光と愛の事業団  
TEL：03-3217-3473 FAX：03-3217-3474  
HP: <https://www.yomiuri-hikari.or.jp/report/post-320.html>



## 令和2年度子どもゆめ基金助成金

子どもゆめ基金は国と民間が協力して子どもの体験・読書活動などを応援し、子どもの健全育成の手助けをする基金です。  
●助成対象活動 ①子どもの体験活動の振興を図る活動への助成 ②子どもの読書活動の振興を図る活動への助成  
③子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成(電子申請のみ)  
締切：郵送 6月16日(火) 消印有効、電子申請 6月30日(火) 17時締切  
主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構  
HP: <https://yumekikin.niye.go.jp/jyosei/index.html>



## 子ども文庫助成プログラム

子ども文庫助成には、  
①子どもの本購入費助成、  
②病院・施設子ども読書活動費助成、  
③子どもの本100冊助成、  
④子ども文庫功労賞  
の4つのプログラムがあります

対象は、子どもたちに本を届けることを目的に読書啓発活動を行っている民間のグループまたは個人、及びボランティア団体です。  
営利法人、公共機関はお申し込み頂けません。  
詳しくはホームページ掲載の募集要項をご参照下さい。

締切：6月20日(土)  
主催：公益財団法人伊藤忠記念財団  
HP: <https://www.itc-zaidan.or.jp/summary/library/grant.html>



## 太陽生命厚生財団 助成事業

2020年度も、財団設立の趣旨・目的である社会福祉の向上に寄与するために、生活福祉分野で地域に根ざし、地道な活動を行なっているボランティアグループ等が実施する事業への助成を継続して実施すると共に、高齢者福祉に関する研究・調査への助成活動を実施したいと考えます。

【助成対象】  
I. 事業助成  
地域福祉活動を目的とするボランティアグループおよびNPO(法人格の有無は不問)  
(在宅高齢者等への地域公益事業・生活支援事業を行う社会福祉法人を含みます。)  
II. 研究助成  
非営利の民間団体等および個人

締切：2020年6月30日(火)  
主催：公益財団法人太陽生命厚生財団  
TEL・FAX：03-6674-1217  
HP: [http://www.taiyolife-zaidan.or.jp/promotion\\_recruitment/index.html](http://www.taiyolife-zaidan.or.jp/promotion_recruitment/index.html)



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第155号 発行日：2020年6月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>  
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>  
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788  
e-mail:yamato@ar.wakwak.com  
<http://www.kyodounokyoten.com/>